

介護職員のワーキングエンゲイジメントに焦点を当てた「介護ロボット・ICT 機器時代に対応した職場環境改善アクションチェックリスト」の作成

研究代表者	富山産業保健総合支援センター	産業保健相談員	中林美奈子
研究分担者	富山産業保健総合支援センター	前 所 長	鏡森 定信
	富山産業保健総合支援センター	産業保健専門職	和田 瑞穂
	富山産業保健総合支援センター	産業保健相談員	大平 泰子

1 はじめに

後期高齢者人口の増加と生産年齢人口の減少を背景に、介護業界では中長期的に人材不足が続くと予測されている。そこで本研究では、特養に勤務する介護職員のワークエンゲイジメントの向上と離職防止（定着促進）につながる職場環境改善の方策を提案することを目的に、介護ロボット・ICT 機器を用いた改善アクションチェックリスト（試案）を作成した。

2 研究方法

本研究はアクションチェックリスト開発のための実践的開発研究とした。図1に開発過程を示した。なお、本研究では開発過程1・2について研究申請を行い実施した。

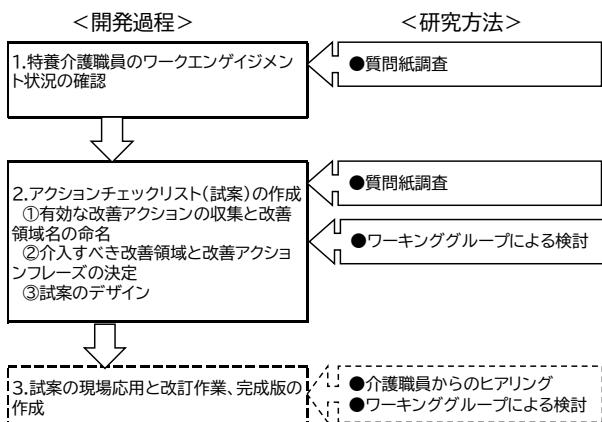


図1 アクションチェックリスト開発過程

まず、2024年9月に富山県内の全特養85施設と地域密着特養31施設に勤務する介護職員545人（1施設当たり入所定員の8%程度）に自記式質問紙調査を実施し、①属性、②介護職員の労働生活の質の状況、③体験を通して有効であったと感じる介護ロボット・ICTを活用した取り組み事例（自由記載）等を尋ねた。

次に、得られた結果を研究代表者、研究分担者、研究

協力者からなるワーキンググループで検討し、介護職員のワークエンゲイジメント向上のために介入すべき改善領域と改善アクションフレーズを決定した。最後に、アクションチェックリストの形に体裁を整えた。

3 結果と考察

1) 調査票は、対象者545人中263人（48.3%）から回答が得られた。
2) ワークエンゲイジメント高群は42.1%、低群は57.9%であった。高群は低群に比べて、他の項目を調整しても「業務満足感が高い」「職場の人間関係が良い」と回答した者が多く、本チェックリストにおいては、「業務満足感の向上」に関する対策の提案を中心に据え、完成したチェックリストの活用の仕方（職場ミーティングでの活用等）において「職場の人間関係の醸成」に役立てていくというスタンスが良いと考えられた。

3) 試案は11領域18項目にまとめられ、現場ですぐに取り組める内容になった。今後、現場で実際に使ってもらい、使用感、使用前後の職場の変化や介護職員のワークエンゲイジメントの変化を評価し、ツールとしての有効性を確認しなければならないが、本試案はワークエンゲイジメントが高い現場の介護職員の意見を基に、産業保健の専門家と介護現場の実情や介護ロボット・ICT機器に精通した保健医療専門職が協働で練り上げた内容であり、介護現場のニーズに即した使いやすいチェックリストになったと考えている。介護ロボット・ICT機器を活用したワークエンゲイジメント対策は新しい試みであり、そのためのツール原案ができたことは有意義であった。